



ごみ非常事態宣言から20年。大学生とともに商品開発

なごや環境大学×名古屋外国語大学 ドラゴンズオリジナルエコバッグプロジェクト

1999年2月、名古屋市が藤前干潟へのごみ埋め立て処分場建設計画を中止して「ごみ非常事態」を宣言してから20年。海洋汚染につながるプラスチックごみの排出を抑制するため、国内でもレジ袋の有料化が議論されるなど、環境問題への取り組みが注目されています。

昨年春に社会課題をコミュニケーションで解決する手法を学ぶ、名古屋外国語大学横山ゼミへグッズ開発を打診。複数の企画案の中から、ごみ非常事態宣言20年を機に、レジ袋削減の普及啓発活動に取り組む「なごや環境大学」との協働で、オリジナルエコバッグの製作が決定。エコバッグの企画、デザインはゼミの学生たちが考案しました。学生たちは商品陳列時に掲示するPOPデザイン、ゼミのアカウントを駆使したSNS展開も行いました。

6月7日の販売初日から問い合わせが殺到し、販売開始3日で製作した1,000個が完売。SNS上では購入できなかった人から「数量限定じゃなくてもかわいいから売れる」などの書き込みもあり、商品自体の魅力の高さに加え、環境問題への関心の高さを実感しました。

名古屋本社 広告三部 森山侑斗、営業推進部 ドラゴンズグッズ開発チーム 丹羽宏行、末永響子

■ 大学生が企画した「ドラecoバッグ」



▲なごや環境大学×ドラゴンズエコバッグ 1,300円(税込)

■ 環境月間に合わせて販売しました



▲ナゴヤドームの売り場

▲学生がデザインした店頭POP

■ SNSを活用して学生が告知



▲横山ゼミのInstagramアカウント

■ Twitterなどでも、さまざまなつぶやきが



無事ゲット!
めちゃんこかわいい!

数量限定じゃなくても
かわいいから売れると思う

■ 記事などでも取り上げられました



▲2019年6月6日付 中日新聞愛知県版

▲「WE LOVE DRAGONS」広告でも告知!
(2019年6月7日付 中日スポーツ)

▲2019年5月28日付
中日スポーツ

▲月刊ドラゴンズ2019年6月号
(5月22日発行)